



＜教育目標＞

- 思いやりのある子ども
- 進んでやりぬく子ども
- じょうぶな子ども
- よく考える子ども

平成30年5月1日(火)  
 練馬区立豊玉第二小学校  
 校長 永井 美奈子

# 豊二小だより

## 5月号

### 第78回目の開校記念日に寄せて

校長 永井 美奈子

新しい年度が始まって一か月がたち、若葉の緑がまぶしい季節になりました。1年生も少しずつ学校生活に慣れ、校舎の外には、子供たちの明るく元気な声が響き渡っています。

さて、連休の最終日となる5月6日(日)は、本校の第78回目の開校記念日となります。豊玉第二小学校の歴史を少し紐解いてみますと、本校は、昭和15年4月1日に豊玉尋常小学校より分離し、東京市板橋区立豊玉第二尋常小学校として開校しました。全校児童数696名、12学級でのスタートでした。その後、昭和18年7月に東京都板橋区立豊玉第二国民学校、更に昭和22年4月に、練馬区立豊玉第二小学校と校名変更し、現在に至っています。

開校当時は、木造校舎でしたが、老朽化のために、昭和40年から3年かけて鉄筋の校舎へと改築工事が行われました。今でこそ、鉄筋の校舎は珍しくありませんが、この当時は、大変画期的だったそうです。また、50周年記念誌によりますと、当初改築工事は、2～3年おきに何期かに分けて行われる予定でしたが、当時の校長先生をはじめ教職員や保護者の方々が区へ熱心に働きかけたことにより工期が見直され、継続した3年間で、予定よりずっと早く完成したのだそうです。その後も、多くの方々の御尽力により、特別教室やプール等の学校施設の改築工事が計画的に進められ、昭和52年には現在の屋内運動場が完成しました。

豊玉第二小学校には、長い年月とともに、この学校にかかわり温かく見守ってくださった多くの方々の願いが込められています。記念誌を読んでいた際に、開校当時のことを記したある一文に目にとまりました。「校舎を建てるにも校地と資金がなく、地元の方々の物心両面からの多大な御支援により設立できた」まさにこの当時、本校設立に関わった地域の方々の思いこそが、豊玉第二小学校の原点であると感じました。その思いは、現在まで脈々と受け継がれ、「地域の学校」として愛され、大切にされていると確信いたしました。

本校の子供たちは、保護者、地域の方々からたくさんの愛情と御支援をいただきながら、「気持ちのよい挨拶」「礼儀正しさ」などの素晴らしい伝統と校風を築いてきました。中でも、42年間も受け継がれてきた「ノーチャイム」は、子供たちの「自立心」と「自律性」を育むためのよい伝統となっています。

これからも、78年の歴史の中で創り上げられてきた伝統や校風を礎に、保護者や地域の皆様との深い信頼関係を築きながら、児童一人一人の力を最大限に伸ばし輝かせる学校、互いに心が響き合う学校を目指し、努力してまいります。笑顔あふれる豊玉第二小学校の子供たちの未来に向けて、今後とも皆様方の御支援、御協力をどうぞよろしくお願いいたします。



整然と並び、集団登校する児童